

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ヶ岳少年自然の家	評価対象年度	令和3年度
事業者名	・事業者名 一般社団法人富士見パノラマリゾート ・代表者名 理事長 名取 重治 ・所在地 長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 77,142人 (令和2年度:6,193人)	②年間延べ利用団体数443団体 (令和2年度:218団体)
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 263,829,000 利用料金収入 2,451,100 環境収入 1,890,845 その他収入(食堂他) 80,945,124 合 計 349,116,069 2 支出 人件費・賃金 104,531,900 光熱水費 39,714,590 委託費 28,216,681 備品購入費 4,929,310 消耗品費 5,969,158 商品仕入れ費 64,344,370 修繕費 15,071,553 その他経費 79,977,953 合 計 342,755,515 3 差引 6,360,554	
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、自然教室のプログラムの一環として、地元農家と連携して田植えや稲刈りの体験を実施するなど、サービス向上に取り組んでいる。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	(評価の理由) ・宿泊者や地域住民を対象とした星空観察のイベントを、感染症対策を講じながら、継続して実施した。 ・感染症対策として、施設独自の感染拡大防止ガイドラインに基づき、検温や手指消毒の啓発、食事の提供方法を給食当番方式とするなどの対策は維持する一方で、感染状況を踏まえたガイドラインの改訂や毎月の安全委員会の実施などの取組を行う中で、貸出中止としていたピアノや卓球、共同冷蔵庫を、使用時のアルコール消毒、貸出状況の記録、団体単位で貸し出すこととするなどのルールをつくるなどの対策を行ったうえで貸出可とするなど、施設利用者の利便性向上に向けた取組を行った。 ・利用者数について、市内小中学校の自然教室においては、新型コロナウイルス感染症拡大以前と同程度まで回復した。一方で、青少年団体の団体利用やファミリー等の一般利用は減少したままであった。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) ・適切な金銭管理・会計手続について、法人の規則等に従い、財務ソフト専用のパソコンによって適切に処理されている。 ・効率的・効果的な支出について、施設の利用状況に合わせ、水配管の補修工事を適切に実施し、光熱水費の削減を進めた。また、自然教室の一部が、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となったことに伴い、業務シフトの入替等を進めるなど、状況の変化に合わせた適切な支出を行った。					
サ	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6

サービス向上及び業務改善	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	5	10
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・施設・事業の広報として、施設ホームページやフェイスブック、Instagramに、施設の出来事や活動に関する写真や動画を定期的な配信を実施した。また、富士見町の小中学校4校のPTAに施設の利用について直接周知を行った。 ・利用者への対応について、接遇マニュアル、苦情対応マニュアルを定めており、利用者に対する接遇・配慮を適切に行った。 ・学校及び行政機関との連携について、自然教室の受入れにおいては、教育委員会指導課と連携してプログラム調整会議を実施し、各学校の意向を踏まえつつ、感染対策を考慮した団体同士の活動スケジュールの調整を綿密に行ったことで、安心して施設を利用していただくことができた。 ・利用者ニーズの把握について、利用者アンケートのほか、センターハウスと星の棟に意見箱を設置し、積極的な把握に努めた。また、自然教室で利用する教員からの、活動の様子を学校や保護者に配信できるようネット環境を整備してほしいとの要望を踏まえ、花棟・鳥棟・星棟に公衆無線LANを設置し、利用者のニーズを踏まえた施設設備の改善を行った。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
	(評価の理由) ・適正な人員配置について、概ね計画的に職員の採用・配置を行った。 ・職員の研修体制について、救急救命、食の安全、リスクマネージャー更新講習、危険生物対策講座など、施設の性質を踏まえた研修を実施し、職員の実践的な知識の向上と衛生管理体制の強化に取り組んだ。 ・ウィズコロナを見据え、外部団体が実施する、青少年教育にかかる体験活動の質の高め方に関する研修を受講した。 ・個人情報の取扱いについて、個人情報保護規程を遵守しているほか、全職員を対象に個人情報保護についての研修会を実施した。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、修繕計画を策定して計画的に修繕を実施するとともに、突発的な破損などによる修繕についても迅速に対応した。 ・利用者の安全確保について、附帯施設も含めた活動エリアの点検と報告を適切に実施した。また、野外炊飯やキャンプファイヤー等、火を扱うプログラムでは、利用者と事前の打ち合わせの実施、注意事項をまとめたマニュアルの配布、調理場にも掲示を行うなど、注意喚起のため、丁寧な対応を行っている。感染症対策に関して、職員向け研修の実施、食堂での飛散防止のアクリルボードの設置や野外調理施設での工場扇の設置による換気の強化など、密集場所における感染症対策も継続して実施した。 ・防犯対策について、計画通り実施した。 ・災害への対応については、危急時対応マニュアルの改訂を随時行い、救急救命及び避難誘導訓練を実施した。各館の非常時用の電源確保として設置しているポータブル発電機の点検を毎月実施し、緊急時最小限での電源使用が可能となる環境を維持した。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
 C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
 E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

八ヶ岳の豊かな自然を活かした様々な活動を展開し、広大な敷地と老朽化の進む施設の管理について、きめ細やかに対応している。また、宿泊棟の畳、絨毯、壁紙、サッシなどの更新などの修繕計画について、自然教室のスケジュール変更に対応しつつ、計画的に実施した。テラスの床板や花壇の侵入防止杭など破損により修繕が必要と判断した箇所や、センターハウス前駐車スペースへの手荷物置き場の設置など利用者ニーズがあると判断した箇所については、DIYも行いつつ適切に対応することができた。 利用者の安全確保に関しては、施設の性質を踏まえ、救急救命・食の安全・宿泊事業及び自然体験活動におけるリスク予知と回避を達成するためのリスクマネージャー更新講習・危険生物対策講座などの研修を実施し、自然体験活動において留意すべき安全衛生や危機管理について、職員の実践的な知識の向上と意識づけが行われており、衛生管理体制の強化が図られている。 当年度は、利用の大半を占める自然教室が再開となるなど、感染防止策の実施と自然体験活動の実施をどのように両立するかということが課題として挙がってきた一年であった。野外炊事場・食堂の環境整備など感染症対策に配慮した受入体制は維持しつつ、利用者・団体に対し、感染防止に向けた協力依頼の実施や事前調整の実施などを堅実にっており、Withコロナの中で、青少年教育施設としての役割を十分に果たしていると評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

平成27年度に発生した事故の教訓を風化させることなく、引き続き、事故防止や衛生管理、利用者に対する注意喚起の徹底、災害や緊急時の適切な対応など、利用者にとって安全・安心に楽しめる施設となるよう、法人全体で施設の適切な管理運営に取り組むこと。、自然教室やスキー教室などの学校との連携事業については安心して利用していただけるよう、引き続き学校との調整・連携にも努めるとともに、感染症の影響により利用が減少している青少年団体等については、様々なツールを用い、施設の現状について正確な情報発信を行い、施設利用を促進することで、自然の家を青少年の教育の場としてさらに機能させるよう取り組むこと。
